

放課後児童クラブ職員募集

放課後児童クラブとは、保護者が就労のため昼間家庭にいない児童を保育するための施設で、運営委員会によって運営されています。

4月1日より新たに放課後児童クラブを2ヶ所開設するにあたり、勤務していただく支援員・補助員を募集します。



	支援員(正・副)	補助員
募集人数	4人程度	10人程度
応募資格	平成29年4月1日現在で65歳未満	平成29年4月1日現在で70歳未満
職 務	小学校4～6年生の保育及び放課後児童クラブの運営	小学校4～6年生の保育及び支援員の補助
勤務場所	西吉富コミュニティセンター横(緒方575番地3) 大平支所内(東下1512番地)	西吉富コミュニティセンター横(緒方575番地3) 大平支所内(東下1512番地)
任用期間	4月1日(土)～平成30年3月31日(土)(更新あり)	4月1日(土)～平成30年3月31日(土)(更新あり)
勤務時間	平日／放課後～18:30 土曜日及び長期休暇など／7:30～18:30のうち 8時間勤務	7:30～18:00のうち3～6時間勤務 (週1～3日程度)
休 日	日曜日、祝日、お盆休み(8月12日～15日) 年末年始(12月29日～翌年1月3日)	日曜日、祝日、お盆休み(8月12日～15日) 年末年始(12月29日～翌年1月3日)
賃 金	正支援員:月給120,000円 副支援員:月給110,000円	時給825円
加入保険	社会保険、雇用保険、労災保険	労災保険

■応募期間 1月4日(水)～31日(火)※土・日・祝日を除く

■必要書類 履歴書(写真貼付)

■選考方法 面接(面接日は後日通知します)

●申し込み・問い合わせ先 子ども未来課 子育て支援係 TEL 72-3111(内線227)

20歳から国民年金

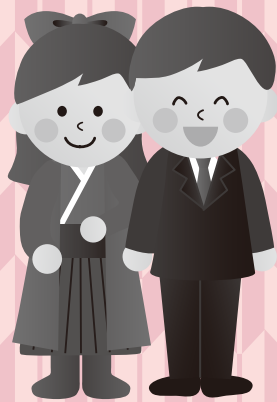
日本に住む 20 歳から 60 歳未満のすべての人は国民年金に加入し、保険料を納めることになっています。国民年金は、老後の生活保障だけでなく、万が一、病気やケガで障がいが残ったときや、一家の働き手が亡くなったときなど、あなたやあなたの家族を守ってくれます。ただし、加入の届出や保険料の納め忘れがあると年金が受けられないことがありますので、「あの時に…」と後悔する前に、国民年金に加入しましょう。加入の手続きは、住民課もしくは年金事務所へお尋ねください。(20歳前に就職して厚生年金などに加入中の方は、加入手続きは不要です)

なお、学生の方や、収入が少なく保険料の納付が困難な方の場合、 「学生納付特例」や「納付猶予」など、保険料の支払いを猶予する制度がありますので、加入手続きと併せて申請してください。

●問い合わせ先

住民課 住民福祉係 TEL 72-3111(内線142)

小倉南年金事務所 TEL 093-471-8869



平成29年度上毛町成人式訂正

大森さやか氏の紹介において一部訂正がありましたので、あらためて掲載します。

高校生の時に自身の思考を表現できる絵画に魅了され絵画を始める。大阪芸術大学に入学し、高田光治に師事。その後、多摩美術大学大学院美術研究科に入学し、辰野登恵子に師事。現在関東で作家活動中。

【略歴】

1984年 上毛町生まれ

2007年 大阪芸術大学美術学科油画コース卒業

2009年 多摩美術大学大学院美術研究科修了

【受賞歴】

2009年 第6回はるひ絵画トリエンナーレ 優秀賞受賞

2008年 第44回神奈川県美術展 特選受賞

2002年 第50回記念中津市美展 記念賞受賞

新年のご挨拶



町長

坪根 秀介

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様方には、希望に満ちた輝かしい新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から町政の運営に温かいご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

年頭にあたり、本町の一層の躍進を期して、新春の気がみなぎるのを覚えますとともに、町民の皆さまの付託に応えるべく改めてその責任の重大さを肝に命じ、町政の発展に心血を注いでまいる決意を新たにしたいところであります。

さて、2017年1月20日、米国ではいよいよ、ドナルド・トランプ氏が大統領に就任します。当選前は「彼が大統領になると世界は転覆する」という悲観論が大勢でしたが、実際に彼が当選すると真逆の期待が起きています。彼の掲げる経済政策への期待なのかも知れませんが、アメリカは勿論、日本の株式市場も景気改善を期待し上昇しています。トランプ氏の出すカードがジョーカーではなく、世界に、そして日本に好景気をもたらすカードとなる様、安倍政権の外交力にも大いに期待したいと存じます。

我が国では今、全国の自治体における、「ふるさと納税」が熱いと言われています。ところがその実態は本来のふるさとを思い納税するといった主旨からかけ離れ、返礼品合戦(もの釣り合戦)の様相を呈しています。しかし、結果的には財源の少ない地方自治体にとって「ふるさと納税」による税収は、大きな収入源となっています。賛否両論ありますが、何もしなければ大きな減収となることも危惧されますし、頑張る自治体とそうでない自治体との間に大きな財源格差

が生じることは必至です。

また、商品アイテム別で見ますと、トランプのカードというエース格が牛肉やカニ、そして、そのエースに釣られ、売れているラッキーマンカードに値するのが米といった状況です。あくまで自治体によって差違はありますが、特に牛肉(高級和牛)はソールドアウト(品切れ)が相次いでいます。しかし、単なる金儲けに走れば、いずれ問題が起きることも懸念されます。ただでさえ食品は腐敗するものですし、写真と違った粗悪なものや、産地偽装等、これまで企業が起こしてきた問題と同様、最悪の事態とまではいかないものの、一部ではすでにクレームも起きています。

大切なことはたとえ行政が関わるものであっても、これは納税(寄付)という名の商いであり、信頼関係がなければ長続きしないということです。当町としては単に財源確保として、モノだけ、業者だけに頼るのではなく、将来に向けての産業振興を見据え、人を育てる事を基本に人と人との信頼関係を第一に考え、誇れるモノを提案していかねければならないと考えます。その為のトップセールスは今後も続けてまいる覚悟であります。この働く姿勢は何もふるさと納税に限った話ではありません。すべての業務においてまずは職員一人ひとりが責任と誇りをもって、心を一つに最高の人・モノ探し、最高の人・モノづくりを目指し、その一つひとつの目標を確実に着実に達成し、それぞれがスペシャリストになっていくことが肝要です。その上で、町全体が活気に満ちあふれた時、そこが「九州一輝く町」が成就する時と考えています。この夢はひとりでは決して叶えられません。一人二人、三人…より多くの人々に情熱の輪が広がって叶うものだと思いたします。

職員一同一丸となって、上毛町に暮らす全ての人々が活き活きと輝き、健康で笑顔のあふれる「九州一輝く町」の創造に向けて、全力を注いでまいる所存です。町民の皆さま方の一層のお力添えを切にお願い申し上げます。

結びにあたり、この一年が町民の皆さまにとりまして夢と希望のもてるすばらしい一年となりますことを心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶いたします。